



本日のプログラム 第2067回例会 平成27年12月17日

ソング：それこそロータリー

行 事：忘年家族例会

第2066回例会 平成27年12月10日の記録

会長の時間 濱田直美会長

みなさんこんばんは。先日の高知遠征ではカツオのたたきをとても楽しみにしていました。前回遠征の時に行った時と同じ店に行きましたが、行ったのが夜だったので、作り置きのみでした。味が全然ちがうと言われてまして、前回のたたきを食べていない私はとても残念で、もう一度どうしても『おいしいカツオの塩たたき』を食べに高知へ行きたいと思っています。

先日母と一緒に『杉原千畝』の映画を見ました。杉原千畝はみなさんご存知の、行き先のないユダヤ人に日本領事として、外務省の意向に反して大量にビザを発給した方です。この方は、早稲田大学へ行っていたが経済的な理由で満州国の哈爾濱学院へ行かれたそうです。その哈爾濱学院のモットーは自治三決と言われ、後藤新平氏が定めた「人のお世話にならないこと、人のお世話をする事、そして報いを求めぬこと」だったそうです。このユダヤ人の移動では、ウラジオストックの領事代理も重要な役を務めますが、この領事代理も杉原氏と同じ哈爾濱学院の卒業



生だったそうです。ウラジオストックでユダヤ人に発給した日本行きの乗船券は本来、漁業関係者にしか出せないものだったそうです。同じモットーを心に刻んだ二人がいたからこそ、の歴史的な出来事だったと思います。

ロータリークラブにも、次の二つのモットーがあります。

“One Profits Most Who Serves Best” 「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」

“Service Above Self” 「超我の奉仕」

ロータリーの奉仕活動も、これらのモットーを心に刻んで行えばますます素晴らしい活動になると思います。近頃のRIは、財団にばかり力をいれて本来のロータリークラブとしての意味合いが違ってきているのではないかと、多くの方からの声が聞こえます。それを受けて、2月14日曜日岐阜グランドホテルにて、小船井PGをお迎えして職業奉仕、国際奉仕、社会奉仕合同のセミナー「What's Rotary?」が開催されますので、是非たくさんの方々の参加をお願いします。本日も出席ありがとうございます。

西村昭宏 幹事

▼松阪東、松阪、伊勢南、松阪山桜、桑名北、新宮ロータリークラブより例会変更のお知らせが届いております。

▼ガバナー事務所より入会候補者情報プログラムのご案内が届いております。

▼国際ロータリー日本事務局より職業奉仕月間リソースのご案内と国際ロータリー出版物日本語注文用紙が届いております。

▼一般財団法人比国育英会バギオ基金より2014年度事業報告書の送付と基金へのご寄付のお

願いが届いております。

▼津南ロータリークラブより年次報告書を戴いております。

▼伊勢ロータリークラブより週報を戴いております。

年次総会

2016-17年度の理事が原案通り全会一致で承認されました。理事は、以下の通りです。

会長：浜口佳文、会長エレクト：西村昭宏、副会長：赤坂俊一、幹事：山門弘毅、会計（副幹事）：佐武紀明、S A A：片岡博也、直前会長：濱田直美、支援プログラム委員長：榎本義秀、管理運営委員長：糸川佳男、奉仕プロジェクト委員長：野地俊行、組織強化委員長：田端稔充、広報委員長：斎藤友紀

パスト会長卓話



本日は、紀南地域の最近の医療事情を少しお話したいと思います。

本年度より、地域医療構想会議という会議

が県主催で始まりました。これは、地域の医療を長期的視点で改革しようとする取り組みです。熊野市の人口はこのまいくと、2040年には12000人くらいまで減少するといわれています。その結果、受療者が減少することが予想されています。そのことで、地域の入院ベッド数などの削減などを、県が国の意向を受けて行うことも視野に入れた会議が構想会議というわけです。県や国のシナリオ通りに事が運ぶと、紀南病院や尾鷲総合病院は今までは存続できなくなる場合が考えられます。また紀南地域は人口密度が低く、集落が分散していることから地域医療の効率は極めて悪く、人口密度の高い都市部のようにはいきません。国の意向をみると、生

産性が低いから効率化を進めるようにとの圧力が垣間見えます。

ここで皆さんにも、「医療」は一般の企業などと同じような企業活動ととらえてよろしいものか、今一度考えていただきたいと思います。少し例を挙げますとアメリカでは皆保険制度がない状況です。その結果、虫垂炎の手術（盲腸の手術）ではアメリカは凡そ120万円、日本では30万円～40万円（保険で1割～3割）、CT検査はアメリカでは10万円強、日本では1.5万円（保険で1割～3割）。救急車もアメリカでは無料ではありません（凡そ6万円）。日本もこのような制度にして、私的な保険に加入すればよいという人もいますが、このような流れを紀南地域に当てはめて想像すれば、医療が成り立たなくなるのは明らかです。

医療や教育は、社会資本として国家にとり不可欠の要素です。「日本は、アメリカのように教育や医療を含め、あらゆるものが資本の論理で貫徹されている社会であってほしくない」というのが大多数の医師の願いです。



ニコニコBOX

◆会長・幹事…本日も出席ありがとうございます。

◆前田 衣代…おかげ様で、きもの教室の45周年記念パーティーを無事終わりホツとしています。会員の皆様や奥様方にもご出席頂き又、会長さんより祝電も頂きありがとうございました。

◆井上 登、平谷一人、田端稔充、前田武久、大崎順敬、森本健一、森本衛、榎本義秀、野地俊行…ビールをいただいて。

出席報告

和田幹夫 出席委員長

会員数 33名 出席数 17名 欠席数 16名

出席率 51.51% 修正 72.72%

次回第2068回例会

12月24日：会員卓話